



あのキャプテンストライダム (よい子はキャプストと略そう) が6/25に待望のニューアルバムをリリースするという事は、耳早くキャブ早い (キャプスト情報を早くからキャッチしている、の略) JUNGLE★LIFE 読者なら当然ご存知のことだろう。もちろん次号7月1日発行号では「アルバム特集」を口実にいつもの如くドタバタ企画 (内容はまだ内緒) を準備しているのだが、リリースまであと1ヶ月を切った6/1現在、「いったいどんなアルバムなんだ?」とみんなはソワソワしながら待っているはず。いや、きっと待ちきれないはず。そんな読者のみなさんにいち早くアルバムの内容を少しだけ紹介しようという、地球と読者に優しくキャプストメンバーには手厳しいリアルなレコメンドである。

アルバムリリース直前…地球と読者に優しくメンバーに厳しいレコメンド

キャプテンストライダム

まずタイトル。「音楽には希望がある」。なんでこんな変なタイトルに? と思った人も多いと思うが、ここ最近の彼ら (特にフロントマン・永友) の発言を注意して聞いていれば自ずとこのタイトルは理解できるはず。ヒントは4/23リリースしたばかりのシングル「人間ナニモノ!?」のフライヤー。ここで永友は熱く (苦著しく) 述べている。一部抜粋しよう。

“映画も、文学も、演劇も、マンガも、それは人を救う力を持っている最高の表現形態であり、文化だ。しかし、音楽だけが持っている偉大な力がある。それは『聴き手と同化する』という事だ。これは感情移入といった類のものではない。”

ちょっと小難しい (永友らしい) 文章だが、彼は何が言いたかという、ことうことだ。「俺の人生は音楽ですげえ変わったぜ! ひっくわだ! 音楽やべえ! 超やべえ! マンガより全然やべえ!!」…まあ要するに音楽で身を滅ぼすタイプの音楽バカ的発言なのだが (笑)、例えば永友が聴いてきた奥田民生は永友に対して「ミュージシャンになれ」というメッセージを送っていたのだろうか? 答えはノーだ。奥田が作った音楽が永友と同化し、永友の中で勝手に (奥田の意志には関係なく) 「音楽やべえからサラリマン辞めてバンドやるぜ!」という熱量が生まれたのである。そう考えると、「音楽には希望がある」というタイトルは、永友が自らの人生経験から学んだ大切な教訓とでも言うべきか。彼はもちろん音楽の“作り手”だが、それ以前におそらく誰よりも“聴き手”なのだろう。音楽が好きで好きでたまらないからこそ、音楽によって何かが発動され、「ムキーン!」と叫びながら楽器を手にとったのだ。只の音楽バカだと言われたら反論の余地はない。でもバカだからこそできることがある。

キャプストは、今現在の人生のほぼ100%を音楽に費やしている。1stアルバム『ブッコロリー』(2003年11月)の頃は、ややマニアックでシュールな自分の世界観を世に出して反応を楽しんでいたが、メジャーフィールドに活動のステージを移してからは、とにかく“自分たちには何が出来るのか?”ということに対して、常に限界まで挑戦し続けてきた。2ndアルバム『108DREAMS』(2006年2月)では、自分たちが考え得る120%のポップミュージックを作り上げた。3rdアルバム『BAN BAN BAN』(2007年3月)ではライブと音源とのギャップを出来る限り埋めようと突き詰めた。そして4thアルバムとなる『音楽には希望がある』では…

キャプストはアルバム毎に音楽性を変えているわけではない。もともと“音楽で生きていく”と腹に決めているが故に、アルバム制作の度に命を削ってその時の自分が信じた道を突き進んできただけだ。1stアルバムでは自分を信じ、2ndアルバムではポピュラリティを信じ、3rdアルバムではライブのダイナミズムを信じ、そして4thアルバムでは音楽が持つ力を信じたのだ。単にそれだけである。この4枚のアルバムで表現されている音楽的な要素は、バンド結成当初に培ったモノの延長線上に過ぎない。

はっきり言うと、4thアルバム『音楽には希望がある』はリスナーの予想を大きく裏切ると思う。いい意味での裏切りなのか、悪い意味での裏切りなのか、筆者は知らない責任も持たない。ただ言うことは、筆者はものすごくいい意味で裏切られた。「ブッコロリー」以来、久々に等身大のアルバムになった気がする。

※アルバムの内容についてまったく触れてない (詳細は次号で触れまくる予定)、収録されている新曲について主観的&個人的感想を断片的に述べる。

「ハローハロー」…メロディが切なくて、ちょっと泣きそうになって腹が立った。「ガラクタ」…絶対にライブで聴きたい。セットリストに入っていないとムカつく。「GOOD COMMUNICATION」…このギターリフ、太陽に吠えるか! (笑)「リズム&スパイダー ~男と女の関係~」…絡みつくようなサウンドがたまらなくエロい。「裏道のHIGHWAY STAR」…なんか新しい。これピアノロック?

「東京ジャンボヴィスコ」…今のキャプストだからこそ出来るポップだと思う。ロックだけど。「サヨナラ」…このコーラス、超イインですけど誰ですか? 「ありのまま世界は」…梅田作曲。激イイ曲。激イイ曲。「愛の言葉」…アルバムの中でいちばんストレート。ワンマンで聴くと泣く。

text : Takeshi.Yamanaka

New Album 『音楽には希望がある』



ヤァ!ヤァ!ヤァ!レコード
AICL-1918
¥3,059 (税込)
2008.6.25 Release

<http://www.captain-a-gogo.com/>